

平成30年度 課題解決推進事業交付金 活用事例

吉沢地区 「吉沢地区地域運営協議会」

吉沢地区避難訓練

～大規模災害等を想定した地域全体で実施する避難訓練～



「事業目的」

大規模災害発生時、または災害発生する恐れがある場合、避難者が避難所に避難するまでの行動訓練と吉沢地区特有の土砂災害に対する避難基準を地域住民に理解してもらう。

「事業の内容」

自治会と防災組織及び一般住民計200名程の参加者を募り、参加者に避難所までの行動訓練と土砂災害への対応、避難所設営及び応急処置方法等を周知する。

- ① 参加者は各自治会防災組織を中心に、自治会単位で避難所に徒歩で集合することで、避難経路の安全確認の必要性等を理解してもらう。
- ② 避難所では、前もって全戸配布した冊子「土砂災害への備え」をもとに講演を実施し、土砂災害に対する判断及び避難基準を理解してもらう。
- ③ 避難所開設時のルールや注意事項、災害時の応急処置について平塚パワーズ等から実演指導を受ける。
- ④ 消防本部の特殊車両の見学を実施する。



「交付金の活用内容」

- ① 「土砂災害への備え」冊子・ハザードマップ・募集チラシの印刷費
- ② 訓練用資材の購入（ブルーシート、養生テープ、ビニール袋等）



「現場レポート」

訓練当日、防災講演会等を実施する吉沢小学校を訪問させていただきました。

吉沢地区自治会連合会と避難訓練実行委員会が中心となって企画された訓練は、避難者の受付、防災講演会、応急処置方法の訓練等、参加者全員が当事者意識を持って、参加できる工夫がされていました。

訓練後の反省会では、実際に防災機材を使用して感じた課題等があげられており、地域全体の防災意識を高めるきっかけとなった訓練になっていました。

平成30年度 課題解決推進事業交付金 活用事例

横内地区 「横内子どもサポートネットワーク協議会」

「横内ふるさと愛」継承事業 ～カルタと歌で、地域の絆とふるさと愛を継承～



「事業目的」

横内地域の各種団体、有志により作成した「横内ふるさとカルタ」ならびに「横内の歌 YOKOUCHI!」をより広く周知し、ふるさと愛、地域の絆を継承していく。

「事業の内容」

小・中学校での地域学習の教材としての活用、カルタ大会の開催、納涼祭、地区レク、公民館祭り等の地域住民が参加する主要行事で、一緒に横内の歌“YOKOUCHI”を歌い、踊ることによって、多世代の地域行事への参画と地域の活性化、連帯感の向上、愛着を持って住み続けたいという意識を高めていく。

- 「横内ふるさとカルタ」の印刷と主要地域施設への配置
- 「横内ふるさとカルタ・歌“YOKOUCHI”」のパンフレット作成・印刷 各戸への配布
- ※ 主要地域施設は 公民館、子どもの家、地区福祉村、小学校、中学校等



「交付金の活用内容」

ふるさとカルタ印刷、パンフレット印刷

「現場レポート」

2月末に開催された横内地区の公民館まつりの中で、今回の課題解決交付金で作成したカルタを用いた、カルタ大会が開催されました。参加者は、地元の小・中学生と保育園児で、全員が一緒にカルタを楽しんでいました。（予選は年代別に行い、勝ち抜いた子ども同士で決勝戦を行うそうです。）

カルタには横内地区の風景や伝統、言葉等が描かれており、カルタを楽しむと横内のことが分かるような内容になっています。現場でお会いした小笠原会長は、地域全員で作りに上げたカルタは、地域の絆を深めるきっかけとなるとおっしゃられていました。

平成 30 年度 課題解決推進事業交付金 活用事例

花水地区 「花水地区団体長連絡協議会」

ちいき情報局の周知と利用拡大

～地域情報を共有し、行事参加の促進と結束力を高める～



「事業目的」

ちいき情報局の周知・利用拡大を図ることにより、地域情報を多くの人に手軽に見ていただき、地域行事への参加促進と地域の結束力を高める。

「事業の内容」

地域住民へちいき情報局のチラシを配布し、ホームページの周知を行うと共に、ちいき情報局の読者登録数及びアクセス件数増を目指す。積極的に情報発信を行うことで、地域行事への参加者増を目指すと同時に、地域団体の小さな情報までも共有し、地域全体の結束力を高める。

- ① ちいき情報局「明るく楽しい ふれあいの街 花水」のチラシ制作。
- ② チラシの配布
- ③ 公民館まつり等で発表の場を設け、周知・利用拡大を図る
 - ・ PR 画像の作成、展示物の作成
 - ・ PR 用ベストの制作

「交付金の活用内容」

- ① チラシの印刷（両面フルカラー）
- ② 活動啓発用ベストの作成
- ③ その他 USB 等の消耗品の購入

「現場レポート」

2月末に行われた花水公民館の公民館まつりにて、花水地区が交付金を活用して啓発に取り組んでいる、ちいき情報局のPRイベントが開催されました。当日はスタッフ全員の方が啓発ベストを着用されて、印刷した啓発チラシの配布や地域で作成したPR動画を活用したプレゼンテーション等を行われていました。特に、読者登録者数を増やすために、登録者に対して先着でおしるこ券を配布する等、積極的な啓発をされていたのが印象的でした。

イベント後に瀬谷会長にお話しを伺ったところ、今回のイベントを行った結果、アクセス数と読者登録を増加させることが出来たので、引き続きPR活動を実施すると同時にHPの充実にも努めたいとおっしゃられていました。



平成30年度 課題解決推進事業交付金 活用事例

城島地区 「城島地区地域活動推進会議」

交通安全立て看板の製作と設置

～子ども達を初めとした地域住民の交通事故を防ぐ～



「事業目的」

県道など交通量が多く信号のない横断歩道や、車両侵入禁止などの注意喚起のため看板を設置し、子ども達や地域住民の安全を守る。

「事業の内容」

交通安全看板の制作を行い、以下の箇所への設置を行い、ドライバーに対する注意喚起を促す。

「横断あり注意」看板

- | | |
|----------------------|----|
| 1、城所馬頭観音5差路横断歩道 | 3枚 |
| 2、城所精陽学園入口横断歩道 | 2枚 |
| 3、城所下島へ向かう早川氏宅前の横断歩道 | 2枚 |
| 4、パイロット線大島八幡神社入口横断歩道 | 2枚 |

「7～9時の時間車両通行規制」の啓発看板

- | | |
|------------------|----|
| 1、城所精陽学園入口城所駐在付近 | 1枚 |
| 2、小鍋島城所農協前 | 1枚 |
| 3、大島八幡神社入口付近 | 1枚 |

以上12枚の設置

「交付金の活用内容」

- アルミ製 交通安全表示立て看板 12枚



「現場レポート」

城島地区では、地域の課題を話し合う場となる「城島地区地域活動推進会議」の活動を今年度よりスタートさせ、その初めての取組として、今回の交通安全看板の設置を行うことを決めました。3月下旬に行われた看板設置の際には、石塚会長を初めとした推進会議のメンバーが集まり、城島地区内の数か所を回り取付作業を行いました。

城島地区は子ども達の通学時間に合わせた侵入禁止の道路が多数あるものの、規制が守られていないことが問題となっていたそうです。今回設置を行った看板の表示でドライバーに啓発を行い、子ども達を初めとした地域の皆さんが安心して歩けるようにしたい狙いがあるそうです。

平成30年度 課題解決推進事業交付金 活用事例

田村地区 「田村連絡会議」

田村地区の安心で安全なまちづくり事業 ～地域の 高齢者や児童生徒の見守り活動～



「事業目的」

地域の見守り活動を通して、地域の高齢者や、児童生徒、一般の地域住民が安全かつ安心して生活できるまちづくりを目指す。

「事業の内容」

田村地区の安心・安全の確保を地域課題として、構成する関係団体から3～5人の協力者を選出してもらい、以下の活動に取り組む。

- ① 田村地区の国道や旧道に7つのサポートポイントを設け、午後の時間帯を中心に、児童生徒や高齢者の交通安全を見守る。
- ② ベストを着用することにより、活動を認知してもらう。
- ③ サポートポイントが田村地区全域に広がっているため、交通安全のみならず、事件・事故など犯罪の抑止に繋げる。
- ④ 年4回開催する田村連絡会議において、情報交換を実施するとともに、見直しを図っていく。



「交付金の活用内容」

啓発ベストの購入

「現場レポート」

今回現場を訪問した時間が、子どもたちの下校時刻であったため、主に子どもたちの見守りを行う現場を訪問させていただきました。

現場でお会いした和田会長にお話を伺ったところ、当番制で見守りを実施されており、横断歩道を渡る子ども達を全員把握し、全ての子ども達が通り過ぎるのを確認しているとのことでした。

また、子ども達とベストを着用して見守るスタッフの方々が挨拶をされている姿が印象的で、地域の安心・安全が、この活動によって守られていると感じさせられました。